

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「安らぎ・思いやり・連帯」を礎にホーム独自の理念を職員全員で話合って作成し、目に付くところに掲示している。「相手を尊重し、ゆっくり優しく、丁寧な支援を行い、入居者と家族に安心と信頼を提供する」という分かりやすい標語を掲げ全員で取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム中央テイルームに掲示し、いつでも確認できるようにしている。月に1回の定例会でも法人代表者が理念について講話をし、全員で確認している。日々の業務においても管理者が職員に伝え、周知し理念に基づいたケアを提供できるよう取り組みを行なっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議等を活用して、情報の提供、協力を依頼している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に入会し、清掃活動や夏祭り等地域の行事に参加すると共にホームの行事にも地域からの参加を呼びかけ、ボランティアの参加も増えている。近隣の保育園園児が来訪し入居者との交流を行い、地域の一員として認識されている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同上		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会への慰問、道路清掃への参加を行なっている。また、地域の小、中学生の学習の場としての受入れも行い、入居者への良い刺激となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点は、ホーム全体で話し合い、改善できることから取り組んでおり、職員全員がよりよいホームとなる様活かしあっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催しており、出席者も増えている。行政、地域の区長、民生委員、保育園園長や家族代表を迎え、職員から現状報告、外部評価の報告等を行なうと同時に、地域との交流について、意見交換をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事がある場合は、直接出向いたり、電話で相談したりして解決できるよう連携を図っている。ホームの行事等も広川町の広報に掲載して頂くなど、よりよくホームを理解してもらう取組みを行なっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを準備し、必要な方への説明を行なっている。施設内研修での勉強会を通して、全職員への周知徹底を図っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会、委員会での指導、勉強会を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には見学をして頂き、十分な説明の後も、不安や疑問がある場合には、連絡を頂く様をお願いしている。また、解約時も同様に、その後の相談も随時受けている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の関りの中でも利用者の意見に耳を傾けすぐに対応、改善できるように努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に入居者の状態や近況報告を行なっている。金銭の出納状況と週一回の往診結果をお知らせするグループホーム便りを月一回送付して家族への報告としている。又、入居者の急変や受診が必要な場合は、随時連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からのご意見が出やすいよう、面会時には必ず声を掛け、ご意見や要望を聞き取っている。意見箱の設置、公的機関の窓口等のお知らせも掲示している。また、家族との交流の機会である忘年会を催し、気軽に意見を出して頂けるよう取り組んでいる。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回、全ユニット合同の定例会、及び、ユニット会議を実施している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は、新規採用職員が徐々に入居者と馴染みの関係になれる様に他の職員と共にケアに関ってもらい、様子を見ながら夜間常勤務に携われる様、配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動の際には、一回に1～2名を限度としている。馴染みの関係が築かれる様にスタッフ全員が出勤時に各ユニットで挨拶を行なうようにしている為、スムーズに引き継ぎができています。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に関しては、性別、年齢等条件はない。職員の年齢層を幅広くし経験や知識、特技を活かせるようにしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>併設の老健と合同で身体拘束委員会を開催しており、人権に関しての勉強会で中心的な役割を果たしている。又、定例会議や朝礼時に法人代表者が講話を行なっている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内等によって、職員は希望により外部研修等を受けることができる。参加後に伝達研修を行い、情報の共有に努めている。又、マニュアルフローシートを作成し、学習会開催時及び、毎日の朝礼時に読み上げを行なっている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>広域連合のグループホーム部会、県高齢者協議会に参加している。交代で会議に参加し、他の事業者の職員と事例検討等を通して情報交換を行なっている。又、他の施設見学にも積極的に参加する機会を作っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>夏祭り打ち上げ会、忘年会を実施している。又、有給休暇を取れるよう勤務体制を整えている。</p>		<p>リフレッシュ休暇(年1回)の検討をしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>併設老健と合同で施設内改善向上委員会で勉強会を毎月行なっている。資格取得の他、感染防止委員会、身体拘束防止委員会等の運営を行い、参加の為の勤務調整を行なっている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者の表情や態度を見て、声掛けを行なっている。傾聴して、伝えたいことを引き出す努力を実施している。ご本人が意思疎通できない場合は、ご家族と話し合う機会を作っている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話での相談の他、いつでも直接ホームへ足を運んで頂き、不安なこと、ご要望等を聴取できるだけ意向に沿える様に努力している。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受け、すぐに本人・ご家族の状況把握に努め、担当者、管理者、ケアマネージャーと連携をとり対応している。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には自宅や入院先を管理者、ケアマネージャー、計画作成担当者が訪問し生活状況等の情報収集を行うと同時に、施設見学を実施してもらって、少しでも安心感を持ってもらえる様に顔見知りになることを心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>相手を尊重し、丁寧に接することとする理念に忠実に行動することを心がけており、入居者の得意分野を引き出せるよう、会話の共有、共感を通じて、何でも話せる関係を作っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会のときや、毎月のグループホーム便りでのご本人の生活情報を報告、相談対応等によって、行き届いた支援によって入居者を支えていけるよう努力している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の立場での状況に配慮しながら、できる限りの範囲で外出、外泊、外食等その方にあった支援の提供に取り組んでいる。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話をよく聞き、ご家族や地域との関係が途切れないように努力している。		ご家族に相談し、協力を得る。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるように努めている	グループワーク、体操、行事への参加の声掛け等を実施しながら、閉じこもった生活にならない様、入居者同士の仲をとりもちながら、良い関係で関り合えるよう努力している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の老健に移動された時は、挨拶や声掛けを行い、他施設への移動は訪問をすることもある。お亡くなりになった場合は、葬儀に参列する等、何らかの支援が必要な場合は、すぐに対応できるようにしている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の意志、ご希望を聞き取り、アセスメントを作成している。日常の入居者の行動、表情を担当者が記録し、それを元に職員で話し合い、入居者のご希望やご意向を把握することに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のデータベースで情報を把握し、ご本人ご家族の聴き取りと合わせて、今までの生活が出来るだけ継続できる様に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の状態に応じて対応し、状態の申し送りを職員間で共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを元に、担当者が計画立案し、ケアマネ、管理者、担当者の話し合いで計画を決定する。医療面での指示が必要な場合は、主治医に意見を求めている。ご家族からは要望や意見を聴き取り、計画に反映させている。主治医の意見も内容を記録している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変改に伴い、担当者が気づきを記録し、毎月のモニタリングによって新たな計画を立案している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を記録し、ご本人やご家族と相談しながら日々介護ケア計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の要望があれば、宿泊や終末期の泊り込みも受け付けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練、保育園児の慰問、小中学生、高校生の慰問、園芸教室等を行なっている。又、離設マニュアルを作成し、徘徊への対応を行なっている。夏祭り等の行事の際は、ボランティア、慰問等の受入れ等、地域からの協力を得ている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	生活保護受給者の面談の際には、福祉環境事務所の保護課の方と情報交換を行なっている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設している老健、居宅支援センターのケアマネと連絡を取り合い、協働への道を模索している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族のご希望を優先し、他科受診や週一回のかかりつけ医の往診により健康管理を行なっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関医師とは様々な相談にのって頂いており、精神科等専門医受診等の相談にも応じている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している老健と医療連携を結んでおり、24時間の医療支援を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>同一法人内の病院とは密に連絡を取り合い、病院の医師、ソーシャルワーカーと管理者、ケアマネとの情報交換を行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に終末医療についてのご意向をお尋ねし、持病をお持ちの方には急変の際の御意向を尋ねている。また、かかりつけ医やご家族との話し合いで決定している。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入居者の状態観察を行い、医療連携している併設の老健看護師に協力依頼している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご家族のご協力と関係機関との間で十分な話し合いや情報交換を行なっている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の人格や個人を尊重した声掛けで対応している。個人記録等は第三者が目につかない鍵の掛かる部屋に保管されている。個人の名前や写真を表記する場合は、同意書を交わしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>担当の職員が、入居者本人やご家族と話し合いの場を設け、介護計画更新時に改めて決定していくようにしている。</p>		
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人の希望を優先し、見守り介助を行なっている。</p>		<p>入居者の誕生日を利用して、職員と外出し、食事をしたり、行って見たいところに同行付き添いするといった取組みを考えている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に一回はあるいは、2ヶ月に一回、訪問理美容の利用をして頂いている。ご家族やご本人の希望で、通いなれた理美容室に行かれる方もおられる。その際は、ご家族同伴で外出される。</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の状態に応じて食事形態を変えて対応している。職員も一緒に食事を摂りながら見守り介助、声掛けを行なっている。又、下準備が可能な入居者には声を掛けて関りを支援している。</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品はご本人の希望があれば、家族に持参して頂き楽しんで頂いている。</p>		
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄記録を元に、排泄パターンに合わせた個別対応をしている。下着オムツ類の選択も全職員の意見を収集し、変更が必要であれば実施している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人のご希望に応じて対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人のご希望に合わせた掛け布団の種類を用意している。又、ベッドだけではなく、ソファ等での安眠確保を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の配達の確認手伝い、もやしの根とり、塗り絵、パズル等、ご本人が喜びを持ってできることを把握し、実施している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピング、ドライブ等に出かけ、気に入られた物を購入して頂ける様、ご家族からの預かり金を保管している。又、公衆電話等掛けられる際は、預かり金の中から手渡ししている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設内遊歩道を利用し、散歩を楽しんで頂いている。休憩所では会話を楽しまれたりしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	各種花見見学会を実施しているが、遠方になる時は、ご家族に促し協力を依頼している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望がある時は、対応している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者居室や中央ダイルームのソファーにて面会をして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健と合同で、月一回開催する、身体拘束廃止委員会に参加し、身体拘束撲滅に努めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設の老健と連携して、鍵を掛けないケアの対策として、高リスク者、徘徊者リストを作成し、入居者の所在把握に努めている。さらに、各ユニットの出入口に鈴をつけている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず、入居者の所在や様子の把握に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の状態に応じた対応をしている。又、刃物を利用される際は、必ず付き添う介護をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策としてのヒヤリハット、事故発生時はトラブルバスターズを作成し、入居者のリスクの把握や事故防止に取り組み、マニュアルを作成して対応を学んでいる。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設の老健と協同して、消防署からの緊急時対応(AEDの取扱い、心肺蘇生法等)の訓練を定期的を受けている。応急手当普及員の講習にも参加している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練、防火訓練を実施すると同時に、地元自治会との交流を深め、地域の理解や協力が得られる様努めている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ヒヤリハットの段階で早急に入居者家族に状態を説明し、話し合いを行い、入居者一人一人が共に安心して生活できるように対策を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルの測定、記録を行い、昼夜を問わず顔色、表情を観察し、変化や異変の早期発見に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を個別にファイルし、服薬時の見守り、確認を行なっている。医師と相談しながら、薬剤の調節も行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排泄回数や形状のチェックを行い、適度な運動や水分の摂取に努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態に応じた道具の選択、口腔清潔保持に努めている。		アセスメントを行い、訴えに応じて対応をしていきたい。年に一回、歯科検診に取り組んでいきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記録と共に個別に取っている。併設老健の管理栄養士に献立のチェック、カロリー、栄養バランスの助言を依頼している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、茶うがいの徹底、感染防止委員会に毎月1回参加し、感染予防ポスターの掲示、感染予防マニュアルの徹底、実行によって対応している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布きん、調理器具等の消毒を実施、冷蔵庫内の掃除、食材の管理チェックを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の方も自由に遊歩道を散策され、遊びにいられている。玄関の周囲もさらに色々アイデアを出していきたい。		グループホームとしての独立した玄関という感じではないので、今後色々工夫、立案して取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに室内、装飾を変えている。庭の畑に季節の花や野菜を育て、季節感を味わって頂いている。		さらに新しい物作りに取り組んでいきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室に自由に出入りできると共に、デイルームにはソファがあり、食後や寛ぎの時間に自由に利用できる。職員も間に入って、居心地のよい場所づくりを心掛けている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や椅子、クッション、ぬいぐるみ、仏壇等を自由にお使い頂き、ご本人と馴染みの食器類をご使用頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に空調設備がある為、こまめに換気を実施し、個人では加湿器の持込や濡れタオルをハンガー等に掛けて使用されている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープや手すりの設置を行っており、移動の際の障害物がないよう環境整備にも努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、洗面所等の標示を行い、スムーズに行動できる様に配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	あずま屋の設置で、散歩時の休憩や、外でのおやつ等を楽しむことができ、日光浴を兼ねて歌を歌ったり、憩いの場として楽しんで頂いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

広川町が見渡せる高台の広大な敷地のなかに建設されたグループホーム舞風台は、春夏秋冬の夫々の季節が身近に感じられ、完全バリアフリーの施設からは簡単に戸外に出ることが出来ます。各ユニットが担当する畑を設け、季節の花や野菜を作って収穫の喜びを味わうこともできます。遊歩道からの眺めは住み慣れた地域を見渡すことができ、安心して生活して頂く事ができます。近くには町立の保育園があり、定期的に園外保育の訪問をして頂いています。園児の訪問の際には、入居者とのふれあいの時間を必ず入れて頂いて、入居者も園児も共に喜びの笑い声が溢れます。また、法人内にはリハビリ専門学院があり、学生の実習を通して、ふれあいやゲームを楽しんで頂くこともできます。年間行事も誕生会、各種花見見学会、夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス、忘年会、新年会と多彩に開催され、入居者の皆様に喜んで頂いております。法人内には地域医療を主眼にした姫野病院があり、同じ敷地内には介護老人保健施設も併設されており、医療連携も十分にとれて、安心して生活できる施設です。